

平成29年 11月28日

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	85	人	国語B	85	人
② 数学A	85	人	数学B	85	人

5 留意事項

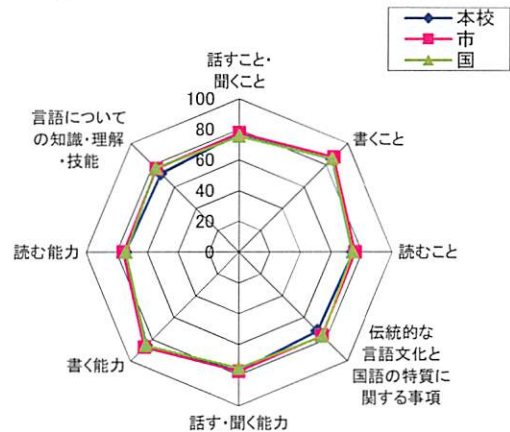
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

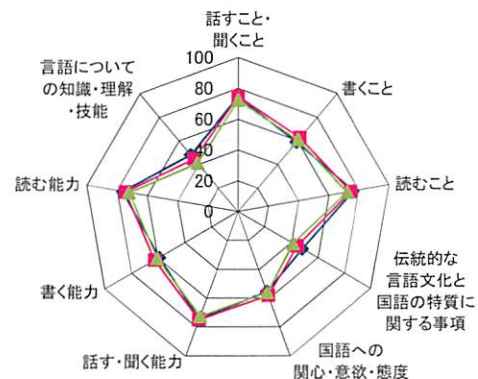
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.4	77.6	75.4
	書くこと	85.6	87.3	85.7
	読むこと	74.3	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.5	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.4	77.6	75.4
	書く能力	85.6	87.3	85.7
	読む能力	74.3	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	72.5	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.5	74.8	72.4
	書くこと	59.1	62.6	60.8
	読むこと	76.2	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	48.2	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	55.3	58.0	55.9
	話す・聞く能力	74.5	74.8	72.4
	書く能力	59.1	62.6	60.8
	読む能力	76.2	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	48.2	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

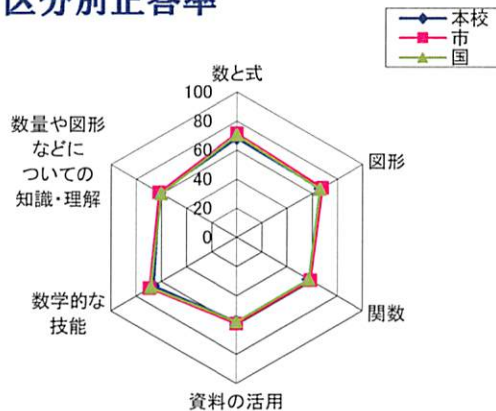
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語Aの平均正答率は、市の平均よりも1.8ポイント、国の平均よりも2.0ポイント高く、国語Bの平均正答率は、国よりも2.1ポイント、市よりも2.1ポイント高い。 特に、「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」の問題は、全国平均よりも5.8ポイント上回っている。	・授業中、実生活に結び付くような言語活動を多く取り入れ、聞いたことから更に自分の考えを整理する活動を意識して行っていく。 ・「意見発表」や「聞き方テスト」などを通して、意識して聴いたり、ポイントをメモしたりする習慣を身に付けさせていく。
書くこと	●国語Aの平均正答率は、市の平均よりも0.3ポイント、国の平均よりも0.1ポイント低い。ほとんどの問題は平均を上回っているが、「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」問題が、国の平均よりも3.3ポイント下回っている。 ●国語Bの平均正答率は市の平均よりも1.6ポイント、国の平均よりも1.7ポイント低い。「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題では、国の平均よりも6.8ポイント上回っているが、「必要な情報を集めるための見直しをもつ」問題は、国の平均よりも8.8ポイント下回っている。	・「書く」ことへの抵抗をなくすよう、自分の思いを短文に書かせる活動を授業中、多く取り入れる。作品の読解や作文単元を通して、「感想文」「要点・要旨のまとめ」「意見文」「主張文」など様々な文種を書かせる。また、一つ一つの言葉を意識し、適切な言葉を選択させる活動も多く取り入れていく。
読むこと	●国語Aの平均正答率は、市の平均よりも0.1ポイント、国の平均よりも0.5ポイント高い。ただ、「文章の表現の仕方について自分の考えをもつ」「文章に表れているもの見方は考え方について、交流を通して自分の考えを広くする」問題では、全国の平均をそれぞれ5.4、5.3ポイント下回っている。 ○国語Bの平均正答率は市の平均よりも3.6ポイント、国の平均よりも4.1ポイント高い。特に、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題では、全国の平均よりも6.8ポイント上回っている。	・物語、論説文などを読むことに関しては、比較的抵抗なく取り組むことができているが、実生活に結び付くような資料の読み取りについては苦手意識が見られる。教科書のテキストだけでなく、発展的な資料も読み取るような言語活動を多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aの平均正答率は、市の平均よりも4.2ポイント、国の平均よりも4.7ポイント低い。「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題では、全国平均よりも10ポイント以上下回る問題もあった。 ○国語Bの平均正答率は、市、国の平均よりも6.8ポイント高い。	・「漢字」や「語彙」を知ってはいても、それを日常生活で適切に使いこなせていない状況が見て取れる。今後も理解し、それを使えるような指導を継続的に行っていく必要がある。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

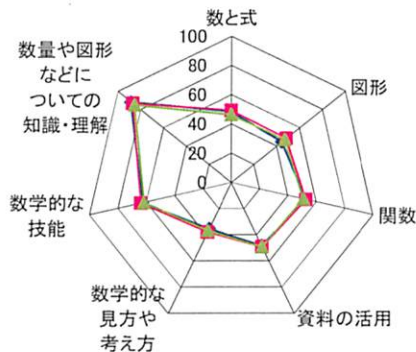
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.3	71.4	70.4
	図形	66.7	67.9	66.0
	関数	57.2	58.6	57.4
	資料の活用	57.6	58.9	57.6
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力			
	書く能力	66.2	69.3	68.2
	読む能力	61.5	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.6	49.4	46.3
	図形	44.5	48.3	47.1
	関数	52.9	52.7	50.8
	資料の活用	48.2	49.0	49.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	35.3	37.8	36.8
	書く能力	62.4	63.7	61.2
	読む能力	88.2	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●数学Aの平均正答率は全国平均より2.1ポイント低い。 ○数学Bは2.3ポイント高い。 ○数学Aでは、「数量の関係を一元一次方程式に表す問題」では正答率が全国平均よりも6.0ポイント高い。 ●「数量の関係を一元一次方程式に表す問題」は、全国平均を高いが、「一元一次方程式を解く問題」については、全国平均を8.6ポイント低い。立式はできるが、解くことができない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の時間を計ったり、正確に解けるようにしたりすることで、基礎的基本的な計算を速く正確に解けるようにする。 ・文章から読み取りや、数の証明の問題など自分の考えを論理的に説明する問題を授業で行うなど、発展的な内容に取り組みさせる時間をより多く設定する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○数学Aの平均正答率は全国平均より0.6ポイント高い。 ●数学Bの平均正答率は2.6ポイント低い。 ○数学Aの問題は多くの問題で全国平均を上回っている。特に「扇形の弧の長さを求める問題」では全国平均よりも10.5ポイント、「直方体での平行な面を書く問題」でも9.5ポイント高い結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で「相似な図形」「円」の単元において、図形の用語、定義や定理、証明の書き方など、1、2年生の内容も踏まえながら指導にあたる。 ・証明問題や図形と関数に関わる発展問題に取り組む機会を増やし、活用する力を身に付けさせる。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ●数学Aの平均正答率は0.2ポイント全国平均より低い。 ○数学Bの平均正答率は2.1ポイント全国平均より高い。 ○数学Bの問題では、関数の単元のほとんど問題で全国平均を上回っており、特に問題解決の方法を数学的に説明する問題では県平均よりも6.7ポイント高い結果となった。 ●数学Aの問題も半数程度は全国平均を上回っている。しかし、「二元一次方程式を表すグラフを表す問題」では全国平均よりも9.1ポイント低い結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で「2乗に比例する関数」の学習の際に、比例・反比例、1次関数の既習事項の復習を繰り返し指導する。また、表・式・グラフを関連させながら、それぞれのよさを生徒に気付かせる。 ・1次関数と2乗に比例する関数の混合問題などの発展的な問題も授業に取り入れ、活用的な能力を育み、数学的な見方や考え方の観点を深める。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○数学Aでは全国平均と同等の結果となった。 ●数学Bでは全国平均より0.9ポイント低い。 ○数学Aの「範囲の意味を問われる問題」では全国平均よりも10.2ポイント高い。 ○数学Bにおいて、この単元だけに限らず本校の「無回答率」が県や全国に比べて非常に低い結果となった。諦めずに示そうと努力している結果であると推測できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生時の標本調査の単元において、資料の整理と活用、確率のなど1・2年生の復習を確実に取り組む。 ・問題を解くだけでなく、実生活にも活用できる事象を授業で取り入れ、学習したことを活用したり説明したりする機会を増やす。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

大方の質問についての肯定的回答の割合は、県および全国平均を上回った。学習意欲は高く、将来の夢や目標をもち、前向きに生活していることがうかがえる。

以下、県および全国平均より10ポイント以上上回ったものと、県および全国平均を下回ったり、課題のあるものを取り上げた。

	主な質問と回答内容	本校	栃木県	県との差	全国	差と値
11	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか。 ⇒(どちらかといえば)あてはまる	89.4	76.6	12.8	70.9	18.5
12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのものは除く)⇒1時間未満	18.8	20.1	▲1.3	20.7	▲1.9
14	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)⇒1時間未満・持っていない	50.6	57.5	6.9	49.5	▲1.1
16	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師を含む)⇒3時間以上	16.4	19.1	▲2.7	17.8	▲1.4
26	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校の出来事について話をしますか⇒(どちらかといえば)している	88.2	77.2	11.0	74.3	13.9
29	家の人(兄弟姉妹を除く)と将来のことについて話ことがありますか⇒話す	81.2	67.8	13.4	60.7	20.5
31	家で、自分で計画を立てて勉強していますか⇒(どちらかといえば)している	70.6	56.4	14.2	51.5	19.1
33	家で、学校の予習をしていますか⇒(どちらかといえば)している	56.4	34.5	21.9	31.7	24.7
34	家で、学校の復習をしていますか⇒(どちらかといえば)している	78.8	64.0	14.8	50.5	28.3
38	学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか⇒(どちらかといえば)そう思う	58.8	48.7	10.1	40.5	18.3
40	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	95.3	85.0	10.3	80.4	14.9
42	今住んでいる地域の行事に参加していますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	71.8	44.3	27.5	42.1	29.7
43	地域や社会で起こっている問題や出来事に關心がありますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	81.2	65.5	15.7	59.2	22.0
44	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	60.0	40.3	19.7	33.4	26.6
46	地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか⇒ある	38.8	24.3	14.5	23.6	15.2
47	新聞を読んでいますか⇒週に1回以上読んでいる	11.7	15.9	▲4.2	14.9	▲3.2
50	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか⇒(どちらかといえば)そう思う	44.7	31.0	13.7	32.9	11.8
55	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	89.4	76.8	12.6	64.3	25.1
62	1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	82.4	65.7	16.7	57.9	24.7
67	1、2年生の時に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域に人と関わったりする機会があったと思いますか⇒(どちらかといえば)当てはまる	74.1	59.9	14.2	53.7	20.4

○No.62の肯定的回答率は、全国、県平均を大きく上回っている。「表現力を高め、自分の考えを伝え、学び合う授業」を研究テーマに掲げてきた。学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動についての取組についての質問の肯定的回答率は、85.9%で全国平均より14.6ポイント、県平均より6.8ポイント上回っている。話し合う内容を理解して、相手の考えを聞き、自分の考えを伝える活動についての肯定的回答率は88.2%で、全国平均より14.7ポイント、県平均より6.6ポイント上回っている。研究テーマを基に、継続して授業を展開させていく。

○No.55の肯定的回答率は、全国平均を25.1ポイント上回った。探究的な学習を展開し、調べたこと、考察したことを発表する活動を今後も継続するとともに、発表の質の向上も図っていく。

○No.42、43、44、46、67の地域に関する質問は、全国、県平均を大きく上回っている。地域とのつながりは強い。成長とともに、地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えられるようにさせる。

○No.31、33、34の学習への取組に関する質問の肯定的回答は、全国、県平均を上回っている。学習に対して、まじめに取り組む様子がうかがえる。しかし、学力調査の結果は、国語B、数学A、Bは全国、県平均とほぼ同じで、国語Bは僅かに下回った。学習への取り組み方、ノートの作り方など細かな点の指導をする。

●No.16の土曜日や日曜日など学校が休みの日に3時間以上家庭学習に取り組む生徒は、全国平均より1.4ポイント、県平均より2.7ポイント下回った。2時間以上の回答では、全国、県平均を上回った。家庭学習を行う目的を明確にさせ、より集中して多くの時間、家庭学習に取り組むようにさせる。

●No.12、14の肯定的回答率は、全国平均を僅かに下回っている。テレビやDVDなどの視聴やメールやインターネットに多くの時間を費やすことが、家庭学習にも影響してくる。保護者会などで呼びかけたり、個別指導等を加えながら改善を図る。

●No.47の肯定的回答率は11.7%と低い。インターネットの普及もあり、ネットでニュースを把握する家庭も増えているという理由もあるだろうが、全国、県平均を下回った。教科や総合的な学習の時間、特別活動等でも新聞を活用する機会をつくり新聞を読むきっかけとさせ、読解力、読解力を身に付けさせる。

宇都宮市立上河内中学校（第3学年）

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・表現力を高め、自分の考えを伝え、学び合うことのできる生徒を育成する。	話し合い活動や、グループ活動、発表の機会を意識的に授業中の必要な場面に応じて取り入れる。	「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うかについての質問の肯定的回答率は、85.9%である。全国平均を1.5ポイント上回ったが、県平均を1.0ポイント下回った。ただし、肯定的回答の「どちらかといえば当てはまる」を除く「当てはまる」の回答を選択した生徒は54.1%で、全国平均より11.6ポイント、県平均より8.2ポイント上回っている。 また、自分の考えを伝え合うための情報収集や整理、うまく伝えるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫する質問についての肯定回答率も、全国、県平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎的・基本的内容の定着がされていない。 ・「国語A」は県の平均正答率より2ポイント低く、「言語についての知識・理解・技能」が4.2ポイント及び「書くこと」の平均正答率が0.3ポイント低い。 ・正答率の高い生徒がいる一方、平均をかなり下回る生徒の少数ではない。	・基礎的・基本的内容の定着がされていない。 ・「国語A」は県の平均正答率より低く、「言語についての知識・理解・技能」および「書くこと」の平均正答率が低い。 ・正答率の高い生徒がいる一方、平均をかなり下回る生徒も多い。	・「書くこと」は、授業の中だけでなく、日常生活の中でも、考えを分かりやすく書いたり、話の要点を捉えて書くことを意識させて取り組む場面を設ける。 ・ドリル学習や小テストを継続して行い、基礎力の定着を図るとともに、達成感を味わわせる。 ・個々の生徒の状況を考えると、全体的に学力の底上げが必要である。 ・家庭学習ノートの点検、提出物などを通して、一人一人の学習状況を把握し指導していく。 ・表現力を高め、自分の考えを伝え、学び合うことのできる生徒を育成する。という研究を継続していくことや、問題解決的な学習を取り入れることで、自ら学び自ら考える力を育て、基礎的・基本的な内容の定着を図る。